

BUSINESS REVIEW

2014

第2四半期累計ビジネスレビュー
2013年9月1日～2014年2月28日

株式会社 ファーストリテイリング



ユニクロ 池袋サンシャイン60通り店(グローバル繁盛店)

GROUP HIGHLIGHTS 2014

2014年8月期 上期連結業績

売上高7,643億円(前期比24.3%増)、
営業利益1,032億円(同6.8%増)の増収増益
経常利益、純利益は、為替差益の減少により若干の減益

配当金

中間配当金は1株当たり150円を実施、
年間では300円を予定

香港上場

3月5日に香港証券取引所に、
HDR(香港預託証券)を上場

国内ユニクロ

ヒートテック、ウルトラライトダウン、フリースなどの
冬物コア商品の販売が好調で、
上期の売上高は4.7%の増収、営業利益は1.8%の増益

海外ユニクロ

上期の売上高は、77.6%の増収、
営業利益は75.1%の増益
グレーターチャイナ、韓国、米国、欧州が計画を上回る
米国の赤字幅が、前年比で大幅に縮小
2013年9月、中国の上海にグローバル旗艦店をオープン

グローバルブランド

上期の売上高は31.0%の増収、
営業利益は7.7%の増益
ジーユーは、2013年9月、上海に海外1号店を出店

CSR活動

2013年9月シリア難民への緊急支援、
2013年11月フィリピンへ台風30号の被害に対する
支援を行う



イケブクロに ユニブクロが登場! グローバル繁盛店がオープン

3月14日、日本有数の都心ターミナル駅である池袋の人気メインストリートに「ユニクロ 池袋サンシャイン60通り店」がオープンしました。学生からファミリー層まで幅広いお客様が訪れる地域密着型のグローバル繁盛店です。池袋にちなんだユニクロ初のキャラクター、ユニブクロも誕生。ワクワク感満載の店舗です。

“Global is local, Local is global” 真のグローバル企業をめざして

2014年3月5日、ファーストリテイリングは香港証券取引所にHDR（香港預託証券）を上場しました。今回の海外市場への上場は、中国やアジアの投資家様に我々を知っていただき、投資をしていただくことだけが目的ではなく、我々がめざす真のグローバル企業への歩みの一環でもあります。

海外ユニクロ事業の躍進に支えられ、2014年度上期の業績は増収増益を達成し、通期では3期連続の増収、営業利益の増益を見込んでいます。我々は真のグローバル企業になるために、“Global is local, Local is global”というモットーを掲げました。世界中で最高水準のお店、サービス、商品をお客様にお届けし、世界中にユニクロのファンを増やし、各国でNo.1ブランドになりたいと思っています。

グレーターチャイナ（中国・香港・台湾）や東南アジア諸国での大量出店で、海外ユニクロ事業の成長が加速しています。

ユニクロはグローバル市場で最も注目されるブランドになりつつあり、2013年9月にオープンした上海グローバル旗艦店によって中国市場での知名度は飛躍的に高まりました。

さらに、2014年4月11日にはドイツのベルリンにグローバル旗艦店を1号店として出店、4月16日にはオーストラリアのメルボルンに1号店を出店しました。

ユニクロの出店エリアは、より広い世界へと拡大しています。

また、大きな市場として今後の発展が期待される米国では、新しいビジネス展開が始まっています。2013年秋に大成功を収めたショッピングモールを中心とした10店舗の出店を足がかりに、米国での本格的なチェーン展開をスタートしています。ボストン、フィラデルフィア、ロサンゼルスといったエリアにもドミナントを展開していきます。

日本でのユニクロビジネスの改革にも着手し始めました。地域密着型の店舗経営をめざし、売場スタッフと店長が主役となり、世界水準の仕事をするように変えていきたいと考えています。そのために“地域正社員”を多く登用し、地域ごとにお客様のニーズに合った品揃えとサービスを提供できるようにしていきたいと思っています。

グループの第二の柱であるジーユー事業は、2014年度には年商1,000億円を超えるビジネスに成長する見通しであり、セオリー事業も数年後には1,000億円規模になる見込みです。

上期には「シリア難民への緊急支援」「フィリピン台風被害への支援」「Clothes for Smilesプロジェクト」「ユニクロ復興応援プロジェクト」などの活動を推進しました。こうした社会貢献活動は事業と同じか、それ以上に重要だと考えています。我々は、服を通じて世界中の人々に幸せや喜びを伝え続ける企業でありたいと思っています。

代表取締役会長兼社長 柳井 正

グレーターチャイナ 拡大継続



グレーターチャイナの店舗数
325店舗 (2014年2月末現在)



グレーターチャイナの発展が、 海外ユニクロのけん引役です

現在、海外ユニクロ事業の成長をけん引しているのは、グレーターチャイナと東南アジアです。特にグレーターチャイナの発展は目覚ましく、2010年5月の上海 南京西路店、翌2011年9月には台湾にユニクロ 明曜百貨店、2013年4月には香港のユニクロ リー・シアター店と次々にオープンしてきたグローバル旗艦店によって、ユニクロのブランド認知度は飛躍的に高まりました。また、海外ユニクロ事業全体の約6割の店舗がグレーターチャイナにあり、好調な業績を維持し、成長のドライバーとなっています。

さらに2013年9月にオープンしたグローバル旗艦店のユニクロ上海店は、グレーターチャイナで出店拡大をしていく起爆剤になりました。ユニクロは元気の良いブランドだという明るい話題が上海から地方へと広く伝わり、「ユニクロが好き」「ユニクロの服を着たい」という消費行動の変化が起っています。今後は成都、重慶、南京、長沙、武漢、西安、瀋陽といった都市でもドミナントを形成し、上海や北京のように幅広い層のお客様にユニクロブランドを浸透させていくことができると考えています。これからもグレーターチャイナでの事業拡大を原動力に、支持され続けるブランドとしてユニクロを成長させていきます。

ファーストリテイリンググループ 上席執行役員
ユニクログレーターチャイナ CEO
迅銷(中国)商貿有限公司 CEO
潘寧
(パン・ニン)



イネスとユニクロが創る 「贅沢な服の、その先。」

2014年春夏より、ユニクロはイネス・ド・ラ・フレサンジュとの
コラボレーションラインを開始しました。長くファッション界の
象徴であり続けるイネスは、世界中のファッションデザイナー
たちのイメージーションをかき立てる存在です。同時に、パリ
に暮らす一人の女性として、美しいライフスタイルを世界中へ
発信するパリジェンヌのアイコン的存在でもあります。そんな
彼女とユニクロが創造する「贅沢な服の、その先。」にある日常
でいちばん着たいと思う服。世界中の女性たちに届けます。

*Je crois que la qualité peut
être accessible et c'est un
plaisir de créer son style
sans faire une folie.*

Ines de la Fressange

無理をせず、質が良く、
センスの良いものを、自分のものにできる。
そんな喜びこそ大切。私はそう思ってる。

イネス・ド・ラ・フレサンジュ



THEORY's *Runway Debut*



TheoryがNYコレクションで初ランウェイを披露しました

2014年秋冬のニューヨークコレクションで、Theoryが初のランウェイを飾りました。パリコレで名を馳せ、多くの賞に輝いたオートクチュールの新鋭デザイナーであるオリヴィエ・ティスケンスが手がけた今回のTheoryのコレクションは、非の打ちどころのないシャープなデザインと、美しいシルエットに磨きをかけた仕立ての良さが光る話題のコレクションとなりました。

Theoryのアーティスティック・ディレクターであるオリヴィエ・ティスケンスは、これまでの都会的で洗練されたTheoryらしさに、服をまとう女性一人ひとりの「自分らしさ」という繊細な美しさを、輝く宝石のようにちりばめました。今回のコレクションを機に、新たな進化を遂げたTheoryは、これまで以上に多くの女性たちの心をつかむことでしょう。

ファーストリテイリングが香港証券取引所に HDR(香港預託証券)を上場しました

HKEx
STOCK CODE
6288

2014年3月5日、ファーストリテイリングが香港証券取引所にHDRを上場しました。海外での上場は、これが初めてです。今回の上場は新株を発行するのではなく、既存の株式を裏付けとしたHDRを上場させる形をとっています。

上場のセレモニーでは、柳井正会長兼社長が黄金の招き猫を香港証券取引所のチャールズ・リーCEO（最高経営責任者）に寄贈し、香港では「福を招く」と大きな話題となりました。

今回の上場の最大の目的は、成長の著しいグレーターチャイナ

および東南アジア地域で、ユニクロを主力ブランドとするファーストリテイリンググループの認知度をアップさせ、その存在感を高めていくことにあります。また、事業成長に伴い、グローバルに投資家を拡大し、グローバル企業として財務内容や経営状況の透明性を高め、経営の質を向上していくことも大きな目的です。

近い将来、ユニクロの海外店舗数は国内の店舗数を上回る見通しです。今回の上場は、今後のグローバル展開への力強い後押しになると考えています。



香港証券取引所のチャールズ・リーCEOに招き猫を寄贈



9時30分の取引開始に合わせてドラを鳴らす柳井正会長兼社長



投資家・メディア向け説明会は大盛況。写真左から、潘寧（バン・ニン）ユニクログレーターチャイナCEO、柳井正会長兼社長、岡崎健グループCFO

上期の連結業績は、売上高7,643億円(前年同期比24.3%増)、営業利益は1,032億円(同6.8%増)と増収増益を達成いたしました。為替差益が同64億円減となったことから経常利益、純利益ともに、若干の減益となりました。

連結売上高の53%を占める国内ユニクロの売上高は4,055億円(同4.7%増)、営業利益は702億円(同1.8%増)と増収増益の結果でした。増収となった要因は、既存店売上高が2.2%増となったこと、スクラップ&ビルドによる店舗の大型化で1店舗当たりの売上高が増加したこと、2月末の直営店舗数が831店舗(フランチャイズ店18店舗除く)となり、前年同期末比で3店舗増加したことによります。収益面では、売上高総利益率が前年同期比0.8ポイント改善した一方で、売上高販管費比率は、店舗人件費、広告宣伝費、物流費・倉庫費の増加で、同1.3ポイント上昇しました。

上期の海外ユニクロ事業の売上高2,320億円(同77.6%増)、営業利益は280億円(同75.1%増)と大幅な増収増益となりました。特に、グレーターチャイナ(中国・香港・台湾)、韓国、米国、欧州の業績が計画を上回りました。海外ユニクロ事業全体の店舗数は、前年同期末比で175店舗増え、534店舗まで拡大いたしました。

グローバルブランド事業の上期の売上高は1,253億円(同31.0%増)、営業利益は92億円(同7.7%増)と、増収増益を達成しました。特にジーユー事業は、店舗数が前年同期末比で53店舗増え、増収増益を達成いたしました。また、2013年9月に上海市に海外1号店を出店し、海外進出の第一歩いたしました。

なお、1株当たり中間配当金を150円とし、年間配当金300円を予定しています。

3年間の連結業績推移

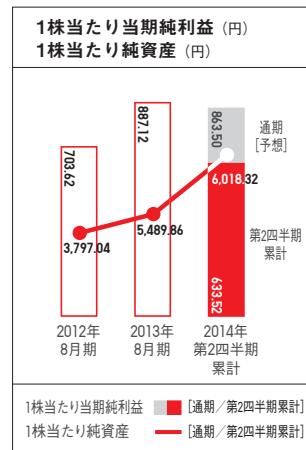
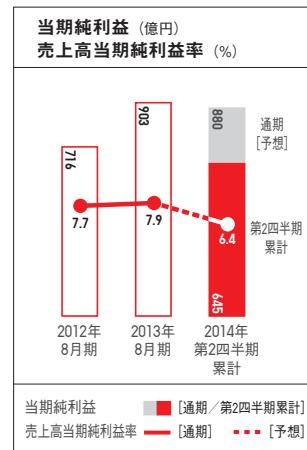
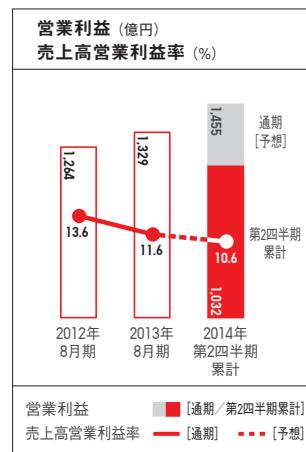
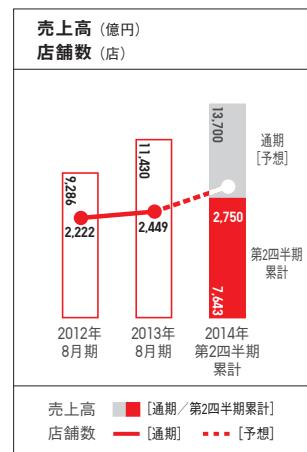
	2012年 連結会計年度末	2013年 連結会計年度末	2014年 第2四半期累計期間末
売上高(百万円)	928,669	1,143,003	764,349
営業利益(百万円)	126,450	132,920	103,204
売上高営業利益率(%)	13.6	11.6	13.5
当期純利益(百万円)	71,654	90,377	64,557
総資産(百万円)	595,102	885,800	948,522
純資産(百万円)	394,892	579,591	637,494
自己資本比率(%)	65.0	63.2	64.7
自己資本当期純利益率(ROE、%)	20.4	19.1	11.0
フリーキャッシュ・フロー(百万円) ^{※1}	92,330	35,538	78,406
現金及び現金同等物期末残高(百万円)	266,020	295,622	358,419
1株当たり当期純利益(円)	703.62	887.12	※2 863.50
1株当たり期末純資産(円)	3,797.04	5,489.86	6,018.32
1株当たり年間配当金(円)	260.00	290.00	※3 300.00
(1株当たり中間配当金)	(130.00)	(140.00)	(150.00)
連結配当性向(%)	37.0	32.7	※2 34.7
発行済株式数(株) ^{※4}	101,854,222	101,896,492	101,911,174
時価総額(億円、期末日終値ベース)	18,608	32,504	35,719
期末総店舗数(店)	2,222	2,449	2,595

※1 営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー

※2 通期の予想を掲載しております。

※3 3期末配当金は150円を予定しておりますので、通期では300円となる予定です。

※4 期末発行済株式数は期末自己株式数を控除しております。



四半期連結貸借対照表			
	単位：百万円		
	前第2四半期 累計期間末 2013年2月28日現在	当第2四半期 累計期間末 2014年2月28日現在	前連結会計 年度末 2013年8月31日現在
資産の部			
流動資産：			
現金及び預金	143,724	217,545	147,429
受取手形及び売掛金	30,142	33,333	34,187
有価証券	198,463	141,141	148,215
たな卸資産	109,629	163,502	166,654
その他	95,472	134,810	143,622
流動資産合計	577,433	690,332	640,109
固定資産：			
有形固定資産	82,607	104,487	90,405
無形固定資産	79,693	76,699	78,115
投資その他の資産	66,745	77,002	77,170
固定資産合計	229,046	258,189	245,690
資産合計	806,479	948,522	885,800
負債の部			
流動負債：			
支払手形及び買掛金	95,418	116,781	121,951
未払法人税等	37,235	39,445	26,005
その他	82,357	105,516	106,008
流動負債合計	215,010	261,743	253,966
固定負債：			
長期借入金	22,388	20,075	21,926
その他	28,640	29,208	30,316
固定負債合計	51,029	49,283	52,243
負債合計	266,040	311,027	306,209
純資産の部			
資本金	10,273	10,273	10,273
資本剰余金	5,824	6,260	5,963
利益剰余金	471,302	531,382	482,109
自己株式	△ 15,899	△ 15,810	△ 15,851
その他の包括利益累計額	49,847	81,228	76,901
新株予約権	1,311	2,028	1,170
少数株主持分	17,779	22,131	19,024
純資産合計	540,439	637,494	579,591
負債純資産合計	806,479	948,522	885,800

【連結財務諸表のポイント】

- 現金・預金及び有価証券の合計額が前年同期末比で164億円増加
各事業の営業キャッシュ・フローが増加したことによります。
- たな卸資産は前年同期末比538億円増加
海外ユニクロ事業で、店舗数が175店舗増加したことにより、283億円増加したこと、国内ユニクロ事業で、店舗什器の高層化による店頭在庫増、通年で販売する定番商品の増加により193億円増えております。
- 流動資産その他で前年同期末比393億円増加
国内ユニクロ事業が保有する為替予約の平均レートと期末のスポットレートの乖離幅が改善したことから、含み益が発生したことによるものです。ただしヘッジ会計を適用していることから、損益への直接的な影響はありません。
- 固定資産は、前年同期末比291億円増加
海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業の店舗数が、それぞれ同175店舗、91店舗増加したことにより、有形固定資産が218億円増加しております。

四半期連結損益計算書			
	単位：百万円		
	前第2四半期 累計期間 自2012年9月1日 至2013年2月28日	当第2四半期 累計期間 自2013年9月1日 至2014年2月28日	前連結会計 年度 自2012年9月1日 至2013年8月31日
売上高	614,841	764,349	1,143,003
売上原価	310,876	387,559	578,992
売上総利益	303,965	376,790	564,011
販売費及び一般管理費	207,306	273,586	431,091
営業利益	96,658	103,204	132,920
営業外収益	11,754	5,638	17,628
営業外費用	652	1,257	1,569
経常利益	107,760	107,584	148,979
特別利益	66	878	390
特別損失	1,246	329	7,845
税金等調整前四半期(当期)純利益	106,580	108,133	141,525
法人税等	38,827	39,843	48,268
少数株主損益調整前四半期(当期)純利益	67,753	68,289	93,256
少数株主利益	2,303	3,731	2,879
中間(当期)純利益	65,449	64,557	90,377

- 売上高は7,643億円、前年同期比24.3%の増収
増収の内訳は、海外ユニクロ事業が1,013億円の増収、グローバルブランド事業が296億円の増収、国内ユニクロ事業が183億円の増収となっております。
- 売上高総利益率は49.3%、前年同期比0.1ポイント低下
- 売上高販管費比率は35.8%、前年同期比2.1ポイント増加
国内ユニクロ事業で、売上高販管費比率が1.3ポイント上昇したこと、販管費比率の高い海外ユニクロ事業の構成比の拡大によるものです。
- 営業外収支は前年同期比67億円の減少
前期末より円安が進んだことにより、保有している外貨建て資産などが円換算で膨らみ、為替差益を47億円計上しました。ただし前年同期では為替差益が111億円計上していたため、営業外収支が減少しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書			
	単位：百万円		
	前第2四半期 累計期間 自2012年9月1日 至2013年2月28日	当第2四半期 累計期間 自2013年9月1日 至2014年2月28日	前連結会計 年度 自2012年9月1日 至2013年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	112,089	103,677	99,439
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 41,741	△ 25,271	△ 63,901
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,103	△ 20,656	△ 23,945
現金及び現金同等物に係る換算差額	13,885	4,365	18,007
現金及び現金同等物の増減額	76,129	62,115	29,600
現金及び現金同等物の期首残高	266,020	295,622	266,020
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	1	681	1
現金及び現金同等物の期末残高	342,151	358,419	295,622

- 当期末の現金及び現金同等物の残高は、前年同期比162億円増の3,584億円
各事業の利益貢献により、営業活動による収入は1,036億円、投資活動による支出は、252億円。財務活動による支出は、206億円と、前年同期に発生した、J Brand買収に伴う費用および借入が減少しております。

■ 会社概要

商号	株式会社ファーストリテイリング FAST RETAILING CO., LTD.		
本社事務所	山口県山口市佐山717番地1		
東京本部	東京都港区赤坂9丁目7番1号 ミッドタウン・タワー		
設立	1963年5月1日		
資本金	102億7,395万円		
事業の内容	株式又は持分の所有によるグループ全体の事業活動の支配・管理等		
連結従業員数	26,371名		

■ 取締役・監査役 (2014年4月1日現在)

代表取締役会長兼社長	柳井 正	常勤監査役	田中 明
取締役(社外)	半林 亨		新庄 正明
	服部 暢達	監査役(社外)	安本 隆晴
	村山 徹		渡邊 顯
	新宅 正明		金子 圭子
	名和 高司		

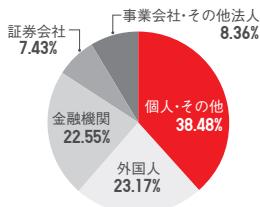
■ 株式の状況

会社が発行する株式の総数	300,000,000株
発行済株式の総数(自己名義株式を含む)	106,073,656株
株主数(自己名義株式を含む)	8,884名

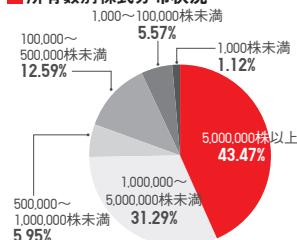
■ 大株主

	持株数(株)	持株比率(%)
柳井 正	22,987,284	21.67
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	11,239,800	10.60
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,568,400	6.19
ティティワイマネージメントビーヴイ	5,310,000	5.01
柳井 一海	4,781,808	4.51
柳井 康治	4,780,600	4.51
有限会社Fight&Step	4,750,000	4.48
株式会社ファーストリテイリング(自己株式)	4,162,482	3.92
有限会社MASTERMIND	3,610,000	3.40
BNPパリバ証券株式会社	3,410,689	3.22

■ 所有者別株式分布状況



■ 所有数別株式分布状況



■ 株主メモ

事業年度	9月1日～翌年8月31日
定時株主総会	毎年11月下旬
同総会議決権行使株主確定日	毎年8月末日
期末配当金受領株主確定日	毎年8月末日
中間配当金受領株主確定日	毎年2月末日
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部(証券コード 9983)
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社

電話お問い合わせ
郵便物送付先
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号
TEL: 0120-232-711(通話料無料)

公告方法
電子公告により、当社ホームページ (<http://www.fastretailing.com/jp/ir/>) に掲載いたします。なお、事故その他のやむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

また、当社の貸借対照表及び損益計算書は当社ホームページの上記アドレスに掲載しております。

単元株式数 100株

- ご注意
- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
 - 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店にお問い合わせください。

ユニクロ お客様窓口 0120-090-296 9:00~17:00(年中無休)

IRホームページ紹介

<http://www.fastretailing.com/jp/ir/>



ユニ
クロ

UNI
QLO

イテブクロ